

〔「愛媛大会集録」掲載〕

この度の第26回全日本特別支援教育研究連盟中国・四国地区研究大会（愛媛大会）の開催に際し、心からお喜びを申し上げます。本大会は、新型コロナウイルス感染症の現況に鑑み、講演のオンデマンド配信、誌面での発表等による開催となりました。愛媛県にお越しいただけなかったことは残念ではありますが、参集型と変わらない十分な成果が得られるよう、関係の皆様が御尽力されていることに心から感謝申し上げます。

また、皆様方におかれましては、それぞれの学校や地域において、新型コロナウイルス感染症への対応に心を砕きながら、障がいのある子どもたちの自立と社会参加に向け、個に応じた指導・支援の充実に御尽力いただいておりますことに対し、深く敬意を表します。

さて、令和3年1月に文部科学省が取りまとめた、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」の報告においては、全国的に特別な支援を必要とする子どもの数が増加の一途であることなどを背景に、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある学びの場の一層の整備・充実が必要であるとの考えが示されています。

本県でも、「愛媛県教育振興に関する大綱」の方針の一つに、「特別支援教育の充実」を掲げ、学校と家庭、関係機関等が連携し、就学を含めた早期からの切れ目ない支援体制を整えるとともに、知的障がい特別支援学校分校の新設等、よりよい学校環境づくりを進めております。また、各種研修事業や相談支援事業を充実させ、特別支援教育に関する教職員の資質向上にも力を入れているところです。

このような中、「子どもの今と将来をつなぎ、豊かな生活を実現する特別支援教育の充実—共に学び、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて—」の大会主題のもと、本研究会が開催されますことは、大変意義深く、中国・四国地区各地で取り組まれた様々な実践を基に、先生方が学び合い、指導力を高められることを通して、本県はもとより、各県の特別支援教育の更なる発展、充実につながることを期待しております。

結びに、全日本特別支援教育研究連盟の益々の御発展と皆様の御健勝・御活躍を心からお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。